

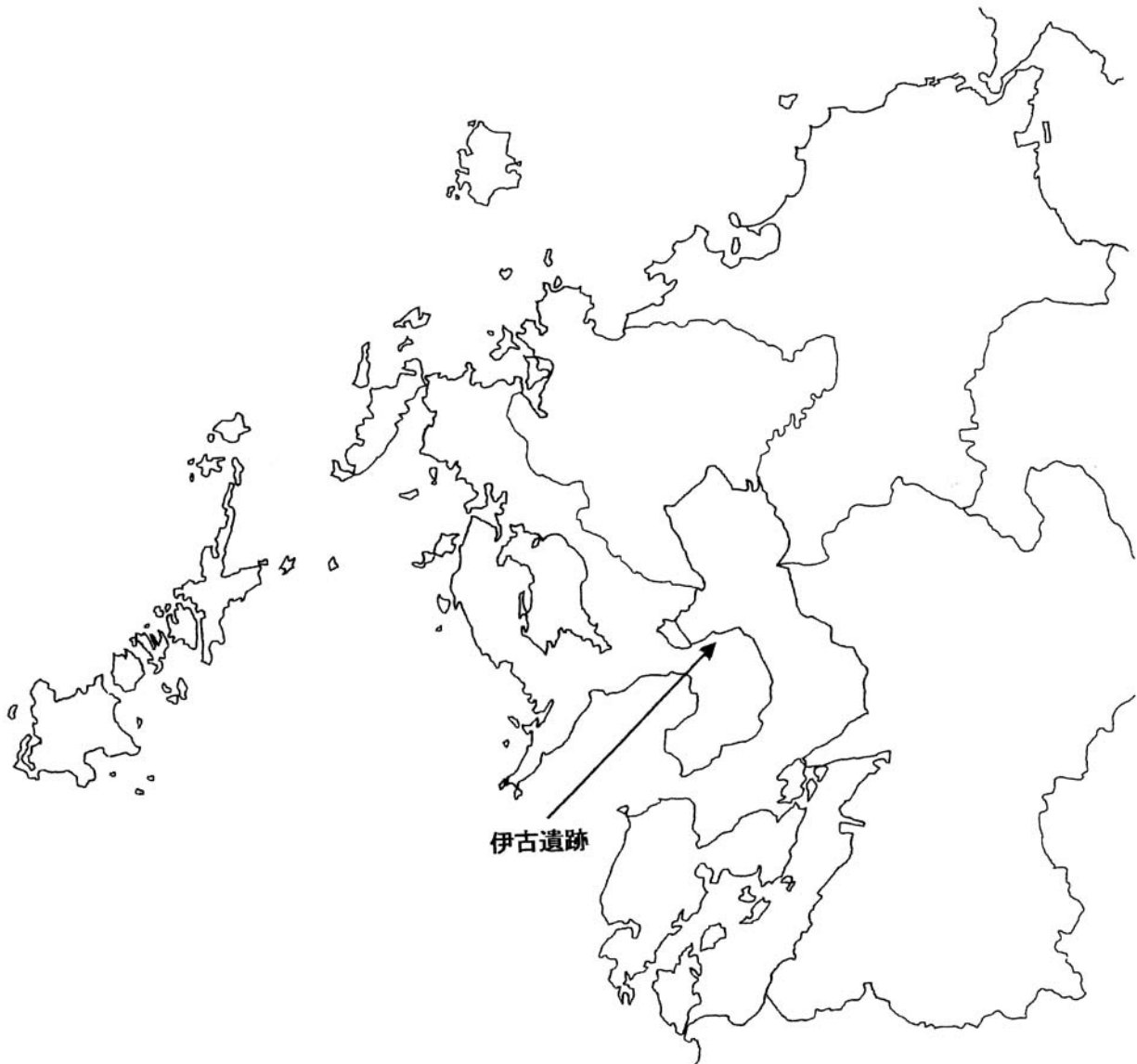
## 【資料紹介】伊古遺跡出土遺物について

村 子 晴 奈

### はじめに

伊古遺跡は、長崎県雲仙市瑞穂町（第1図）に所在し、島原半島北側に広がる雲仙普賢岳の火山性山麓扇状地上に位置する。遺跡の東側には比高差5mほどの舌状の丘陵が延び、西側には西郷川が流れ、有明海へと注いでいる。川と丘陵に挟まれた平坦部に遺跡が展開しており、瑞穂町内で最も広い平野に所在し、現在は区画された水田が広がっている。

県営圃場整備事業に伴い、平成17年度～平成20年度に道路及び用排水路建設部分について調査を行った。伊古遺跡については、既に報告されている（山下 2008・辻田 2009・辻田他 2010）が、未整理な部分も多い。今回、D6区東側から出土した弥生時代の遺物を中心に再整理をし、検討を行った。



第1図 伊古遺跡位置図（S = 1/1,500,000）



第2図 伊古遺跡調査区配置図 (S = 1/2,500)

## 1. 遺跡の概要

伊古遺跡は縄文時代草創期～中世までの複合遺跡である。縄文時代草創期の細石刃製作過程に伴うもの(細石核・細石刃・剥片・チップ)や、弥生時代の甕棺墓(肥後系の甕が用いられている)及び、木製品水漬遺構と想定される遺構が検出された。また、弥生時代終末～古墳時代初頭の溝内からは、古式土師器が集中して出土した。その他に、中世の河川跡も検出されており、河川内には一括廃棄したと考えられる輸入青磁(龍泉窯系, 同安窯系)・白磁や瓦器碗, 滑石製石鍋, 土師質土器などが出土した。どの時代でも遺物や遺構が非常に多く、縄文時代草創期～中世まで、連綿と人々の生活が営まれていた様子がうかがえる。

## 2. 出土遺物(第3図, 第1表, 第2表)

今回, D6区と市道(CR 1区)に挟まれた部分から出土した遺物の再整理を行った(第3図)。その結果, 甕棺, 在地系土器や, 他地域から搬入されたと考えられる土器及び, 石包丁が確認された。

1は広口壺である。弥生時代中期後半の佐賀県武雄地域のもものと類似する。また, 2～4は脚台付甕である。2, 4は在地のものと考えられるが, 3は胎土に金雲母を含む。在地のものは胎土に島原半島で産出される角閃石を含むものが多く, 金雲母はほとんど含まれない。そのため, 3の脚台付甕は在地のものとは異なる。9は朝顔型口縁の壺である。胴部は免田式土器の特徴を持つ, 算盤形を呈する。しかし, 免田式に見られる重弧紋や鋸歯紋などは施されていない。10の長頸壺は形態的に畿内第二様式の壺に系譜を求められるものと考えられる。同様の遺物は南島原市の今福遺跡(町田・宮崎1986)からも出土している。15, 16は肥前型器台である。15は円形の透かし及び方形透かしが施される。16は方形透かしのみである。弥生時代後期後半～終末ものと考えられる。

17～24は大型甕及び壺である。弥生時代後期のものである。

25, 26は石包丁である。地元産出の角閃石安山岩やそれ以外の安山岩でやや硬質の石材を素材とする。片刃で、穿孔方法は石製の穿孔具で、両側からの回転によるものである。

1～26の遺物は、弥生時代中期後半～弥生時代後期末のものであることが分かった。弥生時代における伊古遺跡の最盛期から古墳時代へと移行する時期のものと考えられる。

### 3. 伊古遺跡周辺地域における弥生時代遺跡について

伊古遺跡を含む島原半島北部には、弥生時代中期前半～古墳時代初頭の遺跡が多く存在する。その代表的な遺跡として、陣ノ内遺跡(雲仙市瑞穂町)、小中野A遺跡(雲仙市国見町)・小中野B遺跡(雲仙市国見町)、佃遺跡(雲仙市国見町)、十園遺跡(雲仙市国見町)があげられる。

陣ノ内遺跡は、伊古遺跡から西側に約2.5キロ離れた地点に存在する。弥生時代後期～古墳時代初頭を主体とする集落跡で、伊古遺跡とほぼ同時期に存在した遺跡である。また、伊古遺跡から東に約3.5キロ離れた地点には、佃遺跡が存在する。弥生時代中期後半～古墳時代初頭を主体とする集落跡であり、陣ノ内遺跡、伊古遺跡とほぼ同時期に存在した遺跡である。佃遺跡より東南に約2キロ離れた地点には、弥生時代中期前半頃の城ノ越式土器が出土した小中野A遺跡及び小中野B遺跡が存在する。島原半島では弥生時代前期～中期前半頃の遺跡数が極端に少ないため、城ノ越式段階の遺物が出土する遺跡はごく稀である。また、佃遺跡と小中野A遺跡及び小中野B遺跡の間地点には十園遺跡が存在する。十園遺跡では、北部九州系統の丹塗土器が出土しており、平面形状が円形の住居址と方形の住居址とが共存していることから、北部九州系統の人々との共存が図られる遺跡である。

この様に、伊古遺跡から半径約4キロ圏内に弥生時代中期前半～古墳時代初頭の集落跡が形成されている。今回紹介した遺跡は、島原半島北部の弥生時代を代表する遺跡といえるが、その拠点集落の周辺には小規模な集落が形成されていると考えられる。この小規模集落についての全容は現段階ではまだ明確にはされていない為、今後の調査成果に期待したいと思う。

### 4. まとめ

今回取り上げた遺物は、D6区と市道(CR1区)に挟まれた部分である。佐賀県武雄地域のものと類似する広口壺(第3図1)、畿内第二様式の壺に系譜を求められる長頸壺(第3図10)などは他地域から搬入されたものであろう。また、脚台付甕(第3図2, 4)、肥前型器台(第3図15, 16)、石包丁(第3図25, 26)は在地のものと考えられる。調査では水田跡は確認されていないが、石包丁が出土していることから、集落の生産基盤は、水稻耕作であった可能性が考えられる。

伊古遺跡Ⅲ(辻田他2010)でも、肥後系の免田式土器や黒髪式の甕棺、北部九州系の須玖Ⅱ式の甕、南筑後地方の長胴甕など、在地のものではなく、他地域から搬入されたと考えられる遺物が出土している。伊古遺跡の人々が有明海を通して他地域との交流を活発に行っていた証拠であると考えられる。

島原半島には、弥生時代中期後半以降になると、遺跡数が増加の傾向をみせる。島原半島南部でも今福遺跡(南島原市北有馬町)、高原遺跡(南島原市有家町)などその地域を代表する遺跡が点在するようになる。また、この時期のほとんどの遺跡から肥後地域や北部九州地域から搬入されたと考えられる遺物が多数出土する。これらのことから、有明海あるいは陸路を通じて他地域との交流が活発に行われていたということが考えられる。

これまでも、島原半島と他地域との繋がりについて論じられてきた。しかし、依然として不明瞭な

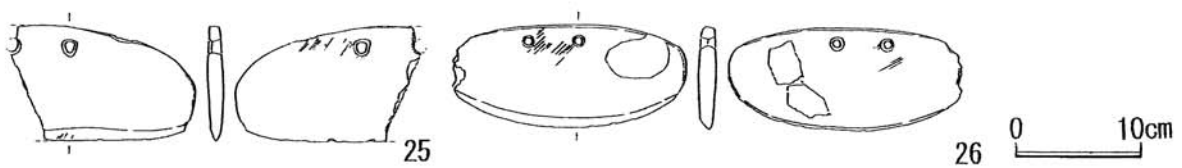
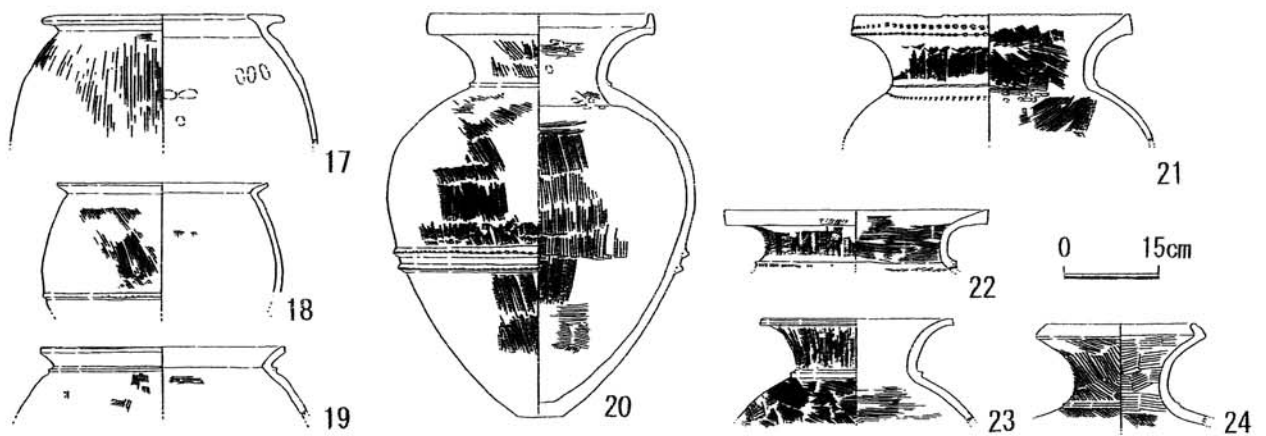
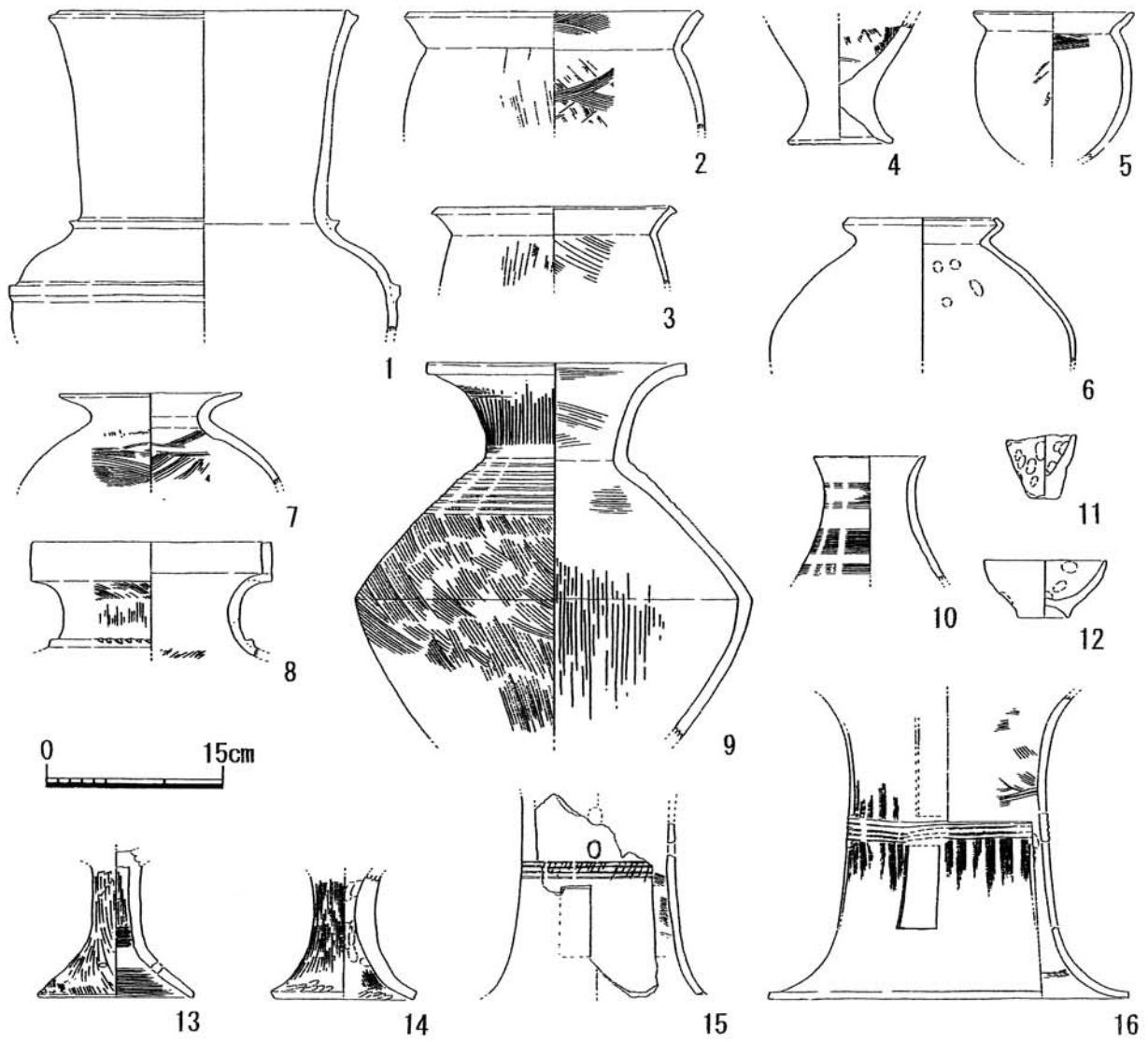
点が存在する。伊古遺跡を含む島原半島の弥生時代の遺跡がどのように形成され、他地域との交流がどのように行われたのか、まだまだ検討の余地があると思われる。今後の課題として、これからも遺物の再整理を行いながら、検討していきたい。

古門先生、還暦おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。これからもお身体を大切に、益々ご活躍くださいますようお願い申し上げます。

最後に、今回の執筆にあたり、辻田直人、早稲田一美、柳原亜矢子、本田円香、橋本清美、林田好子の各氏にご教示及びご協力頂きました。末筆ながら、感謝申し上げます。

#### 【引用・参考文献】

- 上田龍児 2004「長崎県・景華園遺跡の研究」『福岡大学考古学研究室調査研究報告第3冊』福岡大学人文学部考古学研究室
- 熊本県立装飾古墳館 1993『第3回企画展示図録 弥生人の祈り - 免田式土器の謎 - 』熊本県立装飾古墳館
- 島津義昭・村上恭通 1992『二子塚』熊本県文化財調査報告第117集 熊本県教育委員会
- 辻田直人 2009『伊古遺跡Ⅱ』雲仙市教育委員会文化財調査報告書第6集 長崎県雲仙市教育委員会
- 辻田直人・小野綾夏・大野瑞恵・村子晴奈 2010『伊古遺跡Ⅲ』雲仙市文化財調査報告書第8集 長崎県雲仙市教育委員会
- 原田保則 1986『六角川河川改修工事に伴う埋蔵文化財調査報告書（上巻） みやこ遺跡』武雄市文化財調査報告書第15集 佐賀県武雄市教育委員会
- 町田利幸・宮崎貴夫 1986『今福遺跡Ⅲ』長崎県文化財調査報告書第84集 長崎県教育委員会
- 山下美郷 2008『伊古遺跡（中世編）』雲仙市文化財調査報告書（概報）第5集 雲仙市教育委員会



第3图 伊古遺跡出土遺物 1~16 (S=1/6) · 17~24 (S=1/12) · 25~26 (S=1/3)

第1表 出土遺物観察表(土器)

番号	種別	法量 (cm)	技法の特徴	胎土 / 色調	備考	
1	壺	口縁部径(復元) 残存高	24.4 27.0	外面 口縁・胴部: 横位ナデ 頸部: 縦位八ケ後横位ナデ 内面 横位ナデ	石英, 長石, 雲母 外面: 明赤褐色 (Hue 2.5 YR 5/8) 内面: 明赤褐色 (Hue 2.5 YR 5/8), 橙色 (Hue 5 YR 6/6)	焼成良好
2	台付甕	口縁部径(復元) 残存高	24.6 10.1	外面 口縁部: ナデ 胴部: 縦位八ケ後ナデ 内面 口縁部: 斜位八ケ 頸部: ナデ 胴部: 縦位八ケ後部分的にナデ	角閃石, 赤・白色粒子, 石英 外面: 浅黄橙色 (Hue 10 YR 8/3), 灰黄褐色 (Hue 10 YR 6/2) 内面: 浅黄橙色 (Hue 7.5 YR 8/4)	焼成良好
3	台付甕	口縁部径(復元) 残存高	19.6 6.6	外面 口縁部: 横位八ケ後ナデ 胴部: 縦位八ケ 内面 口縁部: 斜位八ケ後ナデ 胴部: 八ケ	金雲母, 白色粒子, 石英 外面: 浅黄橙色 (Hue 10 YR 8/4) 内面: 浅黄橙色 (Hue 10 YR 8/4)	焼成良好
4	台付甕 (脚台部)	残存高 底径	10.3 9.1	外面 口縁部: 横位八ケ後ナデ 胴部: 縦位八ケ 内面 口縁部: 斜位八ケ後ナデ 胴部: 八ケ 脚台部: ナデ	角閃石, 石英, 赤・白色粒子 内外面: にぶい黄橙色 (Hue 10 YR 7/4) 外面: 黒褐色 (Hue 10 YR 3/1), 橙色 (Hue 7.5 YR 6/6) 内面: 明赤褐色 (Hue 5 YR 5/6), 灰色 (Hue 10 YR 4/1)	焼成良好
5	小型壺	口縁部径(復元) 残存高	13.2 12.5	外面 口縁部: ナデ 胴部: 斜位八ケ後ナデ 内面 口縁部: ナデ 胴部上位: 斜位八ケ 胴部中位~下位: 八ケ後ナデ	角閃石, 白色粒子, 石英 外面: 明赤褐色 (Hue 5 YR 5/6) 黒色 (Hue 7.5 YR 1.7/1), にぶい黄橙色 (Hue 10 YR 7/3) 内面: 赤褐色 (Hue 5 YR 4/6)	焼成良好 丹塗り 煤付着
6	二重口縁壺	口縁部径(復元) 残存高	12.6 12.0	外面 ナデ 内面 口縁部: ナデ 胴部上位: 指頭圧痕 胴部中位: ナデ	角閃石, 白・赤色粒子 外面: 明赤褐色 (Hue 5 YR 5/6) にぶい黄橙色 (Hue 10 YR 7/4), 褐灰色 (Hue 10 YR 4/1) 内面: 明赤褐色 (Hue 5 YR 5/6)	
7	壺	口縁部径(復元) 残存高	15.4 7.7	外面 口縁部: ナデ 胴部: 斜位八ケ, 横位八ケ 内面 口縁部: ナデ 胴部: 横位八ケ, 斜位八ケ	角閃石, 白色粒子, 金雲母, 石英 内外面: にぶい黄橙色 (Hue 10 YR 7/4), 黒褐色 (Hue 7.5 YR 3/1) 内面: 明赤褐色 (Hue 5 YR 5/6)	
8	二重口縁壺	口縁部径(復元) 残存高	20.0 9.9	外面 口縁・突帯部: ナデ 内面 口縁部: ナデ 頸部下位: 斜位八ケ	角閃石, 赤色粒子, 石英 外面: 明黄褐色 (Hue 10 YR 7/6), 褐灰色 (Hue 10 YR 4/1) 内面: 浅黄橙色 (Hue 10 YR 8/4)	焼成良好
9	壺	口縁部径(復元) 残存高	22.2 31.9	外面 口縁部: ナデ 頸部: 縦位八ケ後ナデ 胴部上半: 斜位八ケ 下半: 斜位八ケ後ナデ・ミガキ 内面 口縁部: ナデ 頸部: 横位八ケ 胴部: 八ケ後ナデ	角閃石, 赤色粒子, 石英, 長石 外面: 橙色 (Hue 7.5 YR 7/6), にぶい黄橙色 (Hue 10 YR 7/4) 内面: 浅黄橙色 (Hue 10 YR 8/4), 褐灰色 (Hue 10 YR 6/1)	
10	長頸壺	口縁部径(復元) 残存高	9.4 10.5	外面 口縁部: ナデ 頸部: 縦位八ケ後ナデ, 沈線文 内面 ナデ	角閃石, 白・赤色粒子, 石英, 金雲母 外面: 浅黄橙色 (Hue 10 YR 8/4), 褐灰色 (Hue 10 YR 4/1) 内面: にぶい黄橙色 (Hue 10 YR 7/4)	焼成良好
11	甕 (ミニチュア)	口縁部径 器高 底径	5.9 5.4 2.0	外面 指頭圧痕 内面 指頭圧痕	角閃石, 白色粒子 内外面: 浅黄褐色 (Hue 10 YR 8/3), 褐灰色 (Hue 10 YR 4/1)	
12	浅鉢 (ミニチュア)	口縁部径 器高 底径(復元)	10.1 4.9 4.2	外面 ナデ, 指頭圧痕 内面 ナデ, 指頭圧痕	白色粒子, 雲母粒子 内外面: 浅黄褐色 (Hue 10 YR 8/3), 赤褐色 (Hue 2.5 YR 4/6)	丹塗り
13	高坏 (脚台部)	残存高 底径	12.4 13.4	外面 横位ナデ後縦位八ケ 脚注部: ミガキ 内面 脚注部: 横位ナデ後縦位ヘラケズリ 裾部: 回転八ケ後ナデ	赤色粒子, 石英 外面: 橙色 (Hue 7.5 YR 6/6) 内面: 橙色 (Hue 7.5 YR 6/6)	穿孔
14	器台	残存高 底径	10.5 12.4	外面 脚注部: 縦位八ケ後ナデ・ミガキ 裾部: ナデ, ミガキ 内面 脚注部: ヘラケズリ 裾部: 斜位八ケ, ナデ	石英 外面: 浅黄褐色 (Hue 10 YR 8/4) 内面: にぶい黄褐色 (Hue 10 YR 7/4)	
15	器台	胴部径(復元) 残存高	13.0 17.2	外面 胴部上半: ナデ 胴部下半: 横位八ケ後ナデ 内面 胴部上半: ナデ 胴部下半: 斜位八ケ後ナデ	角閃石, 白・赤色粒子, 石英, 内外面: にぶい黄褐色 (Hue 10 YR 7/3) 外面: 赤褐色 (Hue 5 YR 4/6), 褐灰色 (Hue 7.5 YR 4/1) 内面: 橙色 (Hue 5 YR 6/6)	
16	器台	残存高 底径(復元)	25.7 30.6	外面 横位八ケ後ナデ 胴部中位: 従位八ケ, 沈線文 内面 胴部上位: 横位八ケ, 縦位八ケ, ナデ 胴部下位: 指頭圧痕, 横位八ケ後ナデ	角閃石, 白・赤色粒子, 石英 外面: にぶい黄褐色 (Hue 10 YR 7/4), 褐灰色 (Hue 10 YR 6/1) 内面: にぶい黄褐色 (Hue 10 YR 7/4)	
17	甕	口縁部径 残存高	38.4 20.2	外面 口縁部: ナデ 胴部: 縦位八ケ後ナデ・ミガキ 内面 口縁部: ナデ 胴部: ナデ後ミガキ, 指頭圧痕 胴部下位: 指頭圧痕, 横位八ケ後ナデ	石英, 長石, 雲母 外面: 浅黄褐色 (Hue 10 YR 8/4) 内面: にぶい黄褐色 (Hue 10 YR 7/4)	
18	甕	口縁部径(復元) 残存高	33.2 20.2	外面 口縁部: 横位ナデ 胴部: 斜位八ケ後ナデ 内面 口縁部: 横位ナデ 胴部: 縦位八ケ後横位ナデ	角閃石, 白・赤色粒子, 金雲母, 石英 外面: 浅黄褐色 (Hue 10 YR 8/3) 内面: 橙色 (Hue 7.5 YR 6/6)	焼成良好 三角突帯
19	甕	口縁部径(復元) 残存高	38.4 11.8	外面 口縁部: ナデ 胴部: 八ケ後ナデ 内面 口縁部: ナデ 胴部: 八ケ後ナデ	角閃石, 白色粒子, 石英, 5mm以下の長石 外面: にぶい黄褐色 (Hue 10 YR 7/4) 内面: 黄褐色 (Hue 10 YR 5/6)	
20	壺	口縁部径(復元) 器高 底径	34.7 64.2 7.0	外面 口縁部: 横位ナデ 胴部: 八ケ 内面 口縁部: 横位ナデ 胴部: 八ケ 頸部: 横位八ケ, 指頭圧痕, 横位ナデ	角閃石, 赤・白色粒子, 石英, 長石, 雲母 外面: にぶい黄褐色 (Hue 10 YR 7/4) 内面: 黄褐色 (Hue 10 YR 5/6)	突帯
21	壺	口縁部径 残存高	43.2 20.4	外面 口縁部: 横位八ケ後ナデ 胴部: 八ケ後ナデ 内面 口縁部: 斜位八ケ後ナデ 胴部: 斜位八ケ	角閃石, 白色粒子, 石英, 長石, 雲母 外面: 橙色 (Hue 5 YR 6/6) 内面: 明赤褐色 (Hue 5 YR 5/6)	突帯
22	壺	口縁部径(復元) 残存高	41.8 9.6	外面 口縁部: 斜位八ケ 頸部: 縦位八ケ 内面 横位八ケ, ナデ	角閃石, 白・赤色粒子, 金雲母 内外面: 赤褐色 (Hue 5 YR 4/6), 橙色 (Hue 5 YR 6/6)	
23	壺	口縁部径 残存高	29.8 16.8	外面 口縁部: ナデ 頸部: 横位八ケ 胴部: 横・斜位八ケ 内面 口縁部: ナデ 頸・胴部: 横位八ケ後ナデ	角閃石, 赤・白色粒子, 石英, 雲母 外面: 橙色 (Hue 7.5 YR 6/6) 内面: 橙色 (Hue 7.5 YR 6/6)	突帯
24	壺	口縁部径 残存高	23.2 16.7	外面 口縁部: ナデ 頸部: タタキ後ナデ 胴部: 斜位八ケ 内面 口縁部: ナデ 頸部: タタキ後ナデ・ミガキ 胴部: 斜位八ケ	角閃石, 赤・白色粒子 外面: 橙色 (Hue 5 YR 6/6) 内面: 明赤褐色 (Hue 5 YR 5/6)	突帯

第2表 石包丁計測表 長さ・幅・厚さ (cm)

番号	石材	穿孔方法	刃部	備考	長さ	幅	厚さ	重さ (g)
25	安山岩系石材	両側穿孔	片刃	刃部摩擦	7.35	4.6	0.6	27.4
26	角閃石安山岩	両側穿孔	片刃	刃部に光沢有り	4.1	9.25	0.7	41.1